

わが家の十才当番

行田市立東小学校 五年
深井千愛

わたしの家では、十才になると米当番があります。わたしは、去年十才になってから毎日やっています。米選び、米とぎ、米をたくことまで全部が米当番の仕事です。

米選びは、スーパーに行つて選びます。コシヒカリ、あきたこまち、ななつぼし、ミルキークイーン、彩のかがやきなどいろいろな種類があります。米は種類によつて少し形がちがいます。ふくろの外から見ると、家族が「おいしい」と喜んでくれそうな米を選ぶことが米当番の仕事の米選びです。

米とぎは、いろいろなことを思い出しながらやります。茶色かった米を白くきれいな米にする体験や米をスーパーで選んだときを思い出しながらやります。たとえ小さな米一つぶでも無駄にはならないと心がけて、米をといでいます。計量カップで米をはかつて三回くらい水をかえながら米をとぎます。米をといだ水がよくとぐにつれて白からとうめいに近づいてくるとぬかがとれておいしくできるそうです。大変だけど水がとうめいになってくるとうれしいです。これが米当番の仕事の米とぎです。

米をたくことは米がおいしくなつてくれるかを考えてたきます。水の量がまちがっていたりしないかをもう一度たしかめてから米をたきます。たぐとぎに自分で選んで、といだ米がおいしくたけるように心をこめてスイッチをおします。明日の朝、テーブルにならんでいるおいしそうなご飯を想像してみるとドキドキ、ワクワクします。これが米当番の仕事の米をたくことです。

わたしは米当番になつて約一年が過ぎました。

十才になる前はお姉ちゃんがやっていたのを見て、「楽しそうだな」「やってみたいな」と、思っていたけど初めたばかりのころは、

「水の量をまちがえたらどうしよう」「ぬかがついていておいしくないと言われたらどうしよう」と心配や不安があつたけれど今はもうそんな心配や不安がどこにもありません。約一年たつて新しいことができるようになりました。もし次の日がおべん当だったら水の量を少なくしておにぎりにしやすいかためのご飯にしたり、家族がかぜをひいていたら、水の量を少し多くして食べやすいようにします。喜んでもらえてうれしいです。

十二才になると一人で台所に立つことができるようになるわが家のルールがあります。今はまだだれかといっしょにお料理するお手伝いですが、十二才になつて一人でできるようになったら、私がいとお米で大好きなチキンライスを作ろうと思つています。それまで十才当番米係、がんばります。